

きずな

基本理念

「信頼」と「貢献」

患者様の権利を尊重し、理解と納得に基づいた思いやりのある医療を行い、愛され「信頼」される病院を目指します。

地域の方々の健康増進と生命を守るために、また中核病院として地域の医療水準の向上に「貢献」します。

基本方針

- 1 医の倫理に基づき、すべての方々に平等に人格、権利を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 2 常に自己研鑽に努め、高度で質の高い医療を提供します。
- 3 病院内の各部門が相互に協力・連携し、安全な医療を提供します。
- 4 他病院、他診療所等と連携を図り、地域の医療の貢献に努めます。
- 5 医療を通じて地域の方々に安心と信頼を得られるよう努めます。

CONTENTS February 2011

02 花粉症治療の最新情報

お知らせ

04 市立湖西病院改革プラン 評価の概要

リハビリテーション技術室

05 地域リハビリテーション 推進事業の紹介

看護部

06 クリティカルパスを用いた 病棟と手術室の連携

07 人間ドックのご案内

08 市立湖西病院 健康まつり

耳 鼻いんこう科医師紹介
市立湖西病院 診療技術部長
船井 恒嘉

日本耳鼻咽喉科学会専門医、身体障害者福祉法指定医師

「耳鼻いんこう科疾患の治療に専念しております。」

Vol.

7

花粉症治療の最新情報

耳鼻いんこう科 船井 恒嘉

今春はスギ花粉症でお困りになつていらっしゃる方が大変多いと思われます。今回はスギ花粉症治療の最新情報を解説します。

スギ花粉症患者の増加

スギ花粉の飛散数は、夏の気象条件が大きく影響し、一般に猛暑の夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数は多くなります。平成22年の夏は記録的な猛暑となり、平成23年春の花粉総飛散数は、例年より多いかやや多いと予測されます。しかし、花粉飛散数が少なかった平成22年と比べると非常に多くなり、浜松市では昨年の15倍強と予想されています。従って昨年は症状が軽くすんでいた人は、今春は中等症・重症になる可能性が高くなります。

なぜスギ花粉症が日本だけで問題となつているのでしょうか？スギは日本特有の木です。スギ花粉の飛散量は、年によつて大きく変動しますが、近年、戦後に植えられたスギの木が大きく成長し、潜在的な花粉生産能力が高い状態になっています。また、気象の温暖化の影響で花粉は多く産生されるようになっていきます。スギ花粉飛散を減少させる方策として、花粉の多い木の抜き伐りや花粉の

少ないスギへの品種改良の取り組みが行われていますが、全国的に植え替えるのに何十年もかかると言われています。

鼻アレルギーの全国疫学調査が平成20年に行われました。スギ花粉症では平成10年に16.2%であった全国平均有病率が平成20年年には26.5%に増加していました。年齢層別有病率では、10歳代から50歳代で30%を超えています。花粉症が勉強や仕事の能率を下げ、また医療費を増加させていることは、社会問題になっています。

初期治療・早期治療の利点

毎年、重い花粉症症状に悩む方に、花粉症の初期治療・早期治療が勧められます。花粉飛散開始の2週間前から治療を開始すれば、花粉飛散の最盛期を迎えても、症状を軽く抑えた状態で過ごせるので、薬の使用量を減らすことができます。薬の服用は花粉シーズン中を通して続けることが必要です。また、花粉症の症状が起り始めた初期では、鼻粘膜にまだ炎症が進んでおらず、この時期に治療を開始すると粘膜の炎症の進行を止め、早く正常化させることができます。そのため、重症化を防ぐことができます。

鼻アレルギー診療ガイドライン（2009年版）に基づいた治療

花粉除去と回避は、花粉症対策の基本です。マスクは、吸い込む花粉を減らし、症状を軽減します。しかし風が強いと効果は減弱します。

病型をくしゃみ・鼻漏型と鼻閉型に分け、重症度を軽症、中等症、重症・重症に分け、病型と重症度によって治療法の選択が決定されます。

最も一般的に処方される第2世代抗ヒスタミン薬は、アレルギー性鼻炎症状に全般的に有効で即効性があります。第1世代と比較して眠気や口渇などの副作用が少なくなりましたが、薬により眠気の発現頻度に差がありますから、眠気の出ない薬を希望される時は診察の時に伝えてください。鼻噴霧用ステロイド薬はクシャミ、鼻漏、鼻閉に対して等しく効果があり、鼻粘膜から血中に移行しにくいので、全身的副作用がほとんどみられません。化学物質遊離抑制薬、抗ロイコトリエン薬、抗プロスタグランジンD2・トリポンキサンA2薬、Th2サイトカイン阻害薬も処方されます。

鼻閉型で鼻腔形態異常を伴う場合は、手術が必要になります。手術は外来手

術で行われています。

妊娠中は、胎児に与える影響を考え、妊娠4か月の半ばまでは、原則として薬物を用いることは避けたほうが安全です。まず、温熱療法を試みます。これは、42〜43度に加温した蒸気を鼻から吸入することで、鼻づまりや不快感を緩和します。スチーム吸入器は各メーカーが販売しております。妊娠4か月以後で、どうしても薬が必要な場合は、鼻噴霧用ケミカルメディエーター遊離抑制薬、鼻噴霧用ステロイド薬など局所用薬を最少量で用います。ほとんどの薬剤は母体血中から乳汁中へ移行しますが、新生児の全摂取量は母体の1%以下であるため、新生児への影響は小さいか無視しうると考えられています。授乳中は、妊娠初期に対する治療に準じて行われます。

唯一スギ花粉症を治療に導くことができる治療法の代表に、減感作療法(抗原特異的免疫療法)があります。標準化スギアレゲン注射液エキスを、最初は低い濃度から皮下注射し、その後少しずつ濃度を上げ、体を徐々に慣れさせていく(花粉抗原に対する免疫を獲得)治療法です。実際には花粉症の季節が始まる3か月前以上から始め、2年間以上続けることが必要です。市立湖西病院では行つて

いませんので、近隣の減感作療法を行つて

いる医療機関を紹介させていただきます。減感作療法により薬剤を使用しないで軽症、無症状で過ごせた人は、スギ花粉飛散の多い時でも25%以上あり、また2年間以上治療を続けた後に中止した場合でも、約70%の患者さんに効果が持続します。高い治療効果が確認されています。しかし、皮下注射に伴う痛みや簡便性の低さなどのために、一般臨床の場で普及していません。実施施設も限られているのが現状です。その最大の原因は、抗原の皮下注射に起因するアナフィラキシーショックなどの高度全身反応が、発生する可能性があるからです。

最新治療法

減感作療法に伴う副作用を低減させるため欧州では、抗原を舌下に投与する舌下免疫療法が一般的な治療となりました。WHOのガイドライン(2008)で推奨されています。現在、厚生労働省の研究班で臨床試験が行われています。これまでの試験の結果では、舌下免疫療法は、注射法よりも若干劣りますが、病院で処方される薬を飲むのと同程度以上の効果がありました。少数に副作用が

認められましたが、軽度でした。海外でのこれまでの試験では、副作用は注射法よりも少なく、重篤な副作用の報告はありません。安全性は、注射法より舌下法が高いとされています。投与法は大変簡便です。スギアレゲンエキスの一定量を、舌下に滴下後2分間舌下に保持し、その後吐き出します。これを最初の4週間は毎日1回行います。その後は花粉飛散期終了まで週1回投与し、以後は月2回の投与を数年続けます。滴下は自分で行いますので、月に1回程度の通院となります。将来これが、一般的な治療法になることが期待されます。

現在行われている減感作療法では、スギ花粉抗原のエキスをを用いるため、致死

的副作用が起きる可能性があります。そこで新たな減感作療法としてスギ花粉症緩和米が、独立行政法人農業生物資源研究所遺伝子組み換え作物センター(つくば市)で開発されました。遺伝子操作技術により、花粉が持つ複数の抗原決定基のつだけを作られた米を食べると、人の体内では花粉が入ってきたと認識されて免疫反応が生じるので、減感作治療と同じような仕組みで症状が緩和されます。複数の抗原決定基が体に入ることになる花粉全部を使う従来の減感作

療法と比較して、副作用が少なく、効果の高い治療法になると期待されます。動物実験では、その有効性と安全性が確認されました。また遺伝子組み換え作物であることから、環境安全性に関する試験が行われています。現時点では問題は認められていません。

厚生省は平成19年にスギ花粉症緩和米は医薬品に該当するとの最終判断を示したので、当初、農水省は食品として平成22年の実用化を目指してきましたが、食品での開発を断念し、医薬品として臨床試験を計画しました。治療で副作用や有効性が厳密に検証されるために認可されるまで一般的に5年以上かかります。我が国では多くの人が、遺伝子組み換え作物を摂取することに抵抗感を感じていますので、世界が注目する画期的な発明ではありますが、将来スギ花粉症緩和米が一般的な治療法となる可能性は低いように思われます。

市立湖西病院改革プラン評価の概要

平成21年3月に市立湖西病院改革プランを策定し、経営改革に取り組んでまいりました。この度、平成21年度における取り組みと評価について学識者を含めた評価委員会に報告いたしました。その内容をお知らせいたします。

1 平成21年度数値目標の状況

項目	プラン目標	実績	比較	達成の可否
経常収支比率	96.3%	102.6%	6.3%	○
医業収支比率	75.2%	79.8%	4.6%	○
職員給与費対医業収益比率	59.8%	57.7%	▲2.1%	○
病床利用率	58.0%	45.3%	▲12.7%	※×
入院患者1人1日当り診療報酬	34,200円	38,100円	3,900円	○
外来患者1人1日当り診療報酬	8,000円	8,500円	500円	○
年間入院患者数	42,340人	33,060人	▲9,280人	※×
年間外来患者数	80,586人	84,662人	4,076人	○

※病床利用率と年間入院患者数につきましては、常勤医師の確保ができなかったため未達成となりました。

2 目標達成のための取り組みに対する評価（主な内容を抜粋）

主な施策	平成21年度の取り組み	平成21年度の目標値と達成状況
子育て中の女性・退職医師等を非常勤医師として雇用します。	健診センターは、事業所検診のために休業医師を、また、小児科・内科では女性医師を採用しました。	○ 事業所検診には医師が必ず同行しなければならぬので、その確保を目標値としました。
病診連携を強化し、診療所からの検査依頼、オープンベッドの利活用を促進します。	検査の依頼件数は、平成20年度より30件減ですが、収益は30,966円増の11,578,095円でした。開放型病床の件数も7件減っていますが、収益は2,479,156円増の43,270,036円でした。他病院等からの紹介件数は、49件増の1,736件、逆紹介件数は13件増の1,545件でした。	× 患者の動向により検査依頼が異なるので、連携する医療機関を1件増やすことを目標値としました。実績では医療機関の増は図れませんでした。
人工透析患者の増加に対応するため、病床を増やします。	平成20・21年度にかけて20ベッドにする工事を行い、平成22年2月に供用開始しました。患者数は建設当時28人でしたが年度末は32人となりました。	○ 平成21年度は、建設することを目標値としました。
医事課及び管理課の業務の一部を委託化し、人件費の抑制を図ります。	平成21年9月まで収納業務を委託で行っていましたが、経費削減を図るために臨時職員で対応しました。半期で約100万円の削減が図れました。	△ 業務の見直しをして委託化を図ることを目標値に設定しました。実績として、委託化はできませんでしたが経費削減はできました。
診療材料の納入単価を民間病院と比較し、高価なものは低価格を図ります。	317の診療材料について、他病院と納入単価を比較しました。同一品目19品目のうち当病院の方が高かったのは8品目で、2品目については、交渉により引き下げることができました。	△ 他病院と比較して高額なものについては、すべて引き下げること目標値としました。実績は取り組みのとおりです。
既存の業務委託について、長期継続契約を導入して委託経費を削減します。	委託4業務について長期契約を導入し、3年間で約520万円の予算削減を行いました。	○ 平成21年度予算の委託費の1%（432万円）削減を目標値と設定しました。実績は取り組みのとおりです。
医療機器の導入にあたっては、医療機器購入選定委員会において精査し、計画的な導入に努めます。	平成22年度の予算編成で、各部署から機器購入要望が出されましたが、委員会で精査して、約2億7,700万円の要求額を2億2,100万円にしました。	○ 各科から要望のある医療機器の購入について、10%の削減を目標値に設定しました。
毎年、患者満足度調査や接遇研修等を実施します。	入院・外来患者アンケート調査を実施しました。改善要望があったトイレの改修や接遇研修を実施しました。看護部では接遇研修を2回実施しました。	○ 患者満足度の加重平均を平成20年度1.15から平成21年度1.25にすることを目標値に設定しました。実績では1.26でした。
市民健康講座を開催し、健康に対する意識の高揚を図ります。	血液透析センターの完成に併せて平成22年2月20日に健康まつりを開催しました。骨密度等の検査や浜松医科大学血液浄化療法部長加藤明彦先生による「慢性腎臓病」の講演会を開催しました。	○ 年1回講座を開催することを目標値に設定しました。
病院まつり等を開催し、親しまれる病院づくりを図ります。		○ 年1回健康まつりを開催することを目標値に設定しました。

注) ○は達成、×は未達成、△は一部達成しましたが目標値に至らなかったことを示します。

詳細はホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。(URL◎<http://www.hospital.kosai.shizuoka.jp/>)

地域リハビリテーション 推進事業の紹介

ー地域リハビリテーション相談窓口を開設しましたー

リハビリテーション技術室 主任理学療法士 **今泉 勝仁**

地域リハビリテーション推進事業をご利用ください！

地域リハビリテーション推進事業とは、リハビリテーションスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が病院等で行う技術や知識を地域の幅広い施設・団体の職種に伝えることで、その地域全体のリハビリテーション・福祉サービスの向上を目指した事業です。

具体的活動は、講演会の開催や施設のリハビリ業務の支援活動、各団体の会員様を対象とした実技を含めた相談会などで、理学療法士が中心となり実施しています。

また、高齢者のみでなく小児を含めた全年齢を対象としています。老人福祉施設や老人クラブだけでなく、少年野球チームなどのスポーツ団体や幼稚園など幅広く対応することが可能です。

リハビリの技術や知識を市民の皆様伝えていくことも中核病院としての役割と考え、この度、地域リハビリテーション相談窓口を開設しました。個人でも団体でもかまいません。リハビリのことで困っていることがあれば、ぜひこの相談窓口をご利用ください。

地域リハビリテーション相談窓口

市立湖西病院 リハビリテーション技術室

直通電話 ● **053-576-7305**

担当 ● 理学療法士 今泉 橋本

時間 ● 12:00-13:00

※直接受付まで来ていただくか、お電話ください。

地域リハビリテーション推進事業で できること(例)

- 介護者のリハビリ方法や介護の悩み相談
- 老人クラブ対象の呼吸・嚥下教室
- 変形性関節症などの運動器症候群の予防とケア
- 職場の腰痛対策 ● ウォーキング教室
- 呼吸と自律神経トレーニング
- 幼児の運動発達とスキンシップ
- 少年スポーツ障害の予防とケア

※上記以外の内容でも、ご相談の上、対応させていただきます。

介護予防事業にも
協力しています

今年度は、湖西市主催の介護予防教室のお手伝いをしています。参加者の皆様は、体の仕組みや機能を勉強しながら、介護予防のために元気にがんばっています。このような協力事業も、地域リハビリテーション推進事業の環として実施しています。

参加者の皆様からはやさしさや元気、人生の経験をいただき、スタッフも成長させていただいています。参加者の皆様には大変感謝しております。

お知らせ

3月12日(土)に市立湖西病院健康まつりを開催します。その中で「健康維持のためのウォーキング教室」を実施しますので、理学療法士や地域リハビリテーション推進事業に興味のある方はぜひお越しください。



● はがらから教室運動編～トココ～湖西病院版
週1回 全12回

を用いた の連携

病棟看護師と手術室看護師で情報を共有しています。

クリティカルパスとは

クリティカルパスとは、患者様が安心して治療を受けることができるように、入院から退院までの時間(日程)を横軸に、検査や処置、食事やケアなどを縦軸に表した診療スケジュール表のことです。(下図参照)

当院には、クリティカルパス委員会があり、パスを作成しています。現在使用しているクリティカルパスは約60種類あります。いろいろな職種が協力して質の高い治療ケアを提供できるよう努めています。

病棟では

入院時に看護師からクリティカルパスを用いて今後の予定をご説明します。不安なことやわからないことなどはできるだけその場でお答えするようにしています。また、予定の検査や手術の前日には、説明用紙を用いて、より具体的な内容について説明させていただいています。手術後は、合併症を併発することなく、予定通り退院できるよう看護を行っています。しかし、患者様の状態によっては、必ずしもスケジュールどおりに経過するとは限りません。そのような場合は、個別に対応させていただいています。

手術室では

手術室の看護師が病棟にうかがい、手術室や手術中の様子について写真などを用いて説明をさせていただいています。病棟看護師とも情報交換を行うなど連携をとり、患者様が安心して安全に手術が受けられるように努めています。全身麻酔での手術後は、患者様がどの

病棟 入院診療計画書 (手術内容) 下肢静脈瘤手術(全身麻酔)を受けられる方へ

患者氏名 様
症状: 下肢倦怠感・静脈怒張・下肢痛・しびれ・浮腫

(病名: 下肢静脈瘤)
推定される入院期間(4日間)

月日	経過	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	術後1日目	術後2日目以降
達成目標	手術の必要性が理解でき、手術の準備が整う		・血圧、脈拍、呼吸が安定する ・痛みがコントロールできる	・痛みが和らぎ歩行できる ・傷の赤みや腫れがない	退院後の生活に不安がない
治療・処置	・爪切りをします ・体重測定をします ・腫れない場合は麻酔を内服します ・入院前に購入したストッキングを看護師が確認します ・お薬を飲んでくれる方は看護師が確認します ・手術部位の毛を剃ります	足のエコーをして手術部位に印をつけます	・麻酔吸入を行います ・足を枕で挙上します	・麻酔吸入をはずします ・尿の管を抜きます	・傷口に防水のフィルムを貼ります ・弾性ストッキングをはきます
薬剤		点滴があります			
検査	・レントゲン、心電図、採血、尿検査があります(外来で済んでいればありません)				
その他・看護計画・リハビリテーション等	活動・安静度 制限はありません		・ベッド上安静です ・ペダル運動を行ってください	制限はありません	
食事	朝食が出ます 21時以降は水分のみ摂取できます	朝から食事は食べられません。 8時以降は飲んだり食べたりできません		朝から朝食が出ます	
清潔	入浴できます	手術に行く前に排便を済ませて下さい	手術室で尿の管をいれますので、手術後しばらくは尿は自然に流れます	看護師が体を拭きます 尿の管を抜いた後は制限はありません	シャワーに入れます 制限はありません
説明	・手術のオリエンテーションがあります ・必要物品(T字帯、バスタオルなど)を準備していただきます ・医師より手術、麻酔について説明があります ・看護師より術後、ベッド上でできる足首の運動(ペダル運動)について説明があります	入れ歯、指輪、時計、めがね、コンタクトレンズ、ピアスなど身につけているものをはずして下さい	傷の痛み、頭痛や吐き気などがある場合は看護師にお知らせ下さい		・手術後7日目から入浴できます ・退院直後から軽作業はできます ・寝るときは弾性ストッキングを脱いでもよいです ・寝るときは下肢を挙上するようにしてください ・退院2週間後に血管外科に受診します 次回受診日 月 日()

市立湖西病院 2010年 11月 改訂

*上記の通りの予定で治療が行われますが、状態に応じて変更になる場合があります。ご不明な点がございましたらいつでもお尋ねください。

担当医名:

印

担当看護師名:

患者(家族)氏名:

当院退院後3ヶ月以内に他の医療機関に入院する場合は、退院証明書を発行いたします。
1階総合受付まで申し出て下さい。

●当院で実際に使用しているクリティカルパスの1例です。

人間ドックのご案内

●実施日

月曜日から金曜日まで及び毎月第2土曜日です。
ただし、祝日及び年末年始(12月29日～翌年1月3日)は実施していません。

●料金(消費税を含む。)

人間ドック 36,750円

問診・身体計測・視力・聴力・血圧・尿・血液・心電図・眼底・眼圧・便潜血反応・肺機能・胸部X線・胃部X線・腹部超音波
※胃部X線検査を胃内視鏡(カメラ)検査に変更することができます。当日の変更はできませんので、予約時にお申し込みください。なお、胃内視鏡(カメラ)検査に変更した場合の料金は、38,850円となります。

脳ドックA 31,500円

MRI・MRA

脳ドックB 44,100円

MRI・MRA・問診・身体計測・血圧・尿・血液・心電図・眼底・胸部X線

肺がんドックA 9,970円

胸部CT・腫瘍マーカー

肺がんドックB 15,750円

胸部CT・腫瘍マーカー・問診・血液・肺機能・胸部X線・喀痰

オプション検査

(ご希望により追加できます。予約時にお申し込みください。)

●子宮がん検査	3,150円
●乳房X線検査(視触診・マンモグラフィー)	5,250円
●胸部CT検査	8,400円
●C型肝炎抗体検査	2,100円
●HIV(エイズ)抗体検査	2,100円
●動脈硬化検査	1,600円
●前立腺検査	2,100円
●骨密度検査	1,600円
●内臓脂肪検査(CT法)	3,150円

●その他

人間ドックは健康保険証が使えません。
ただし、国民健康保険や健康保険組合などから助成を受けられる場合があります。一度ご相談ください。

人間ドックは**予約制**です。少なくとも10日前までにお申し込みください。お電話でもご予約できます。

電話受付時間▶13:00から16:45まで

市立湖西病院健診センター ☎576-1232

クリティカルパス 病棟と手術室

ような様子かを知るために病棟にうかがわせていただいています。

誰しも入院や手術には不安を感じるものですが、クリティカルパスを使用することにより入院中の治療内容やタイムスケジュールを患者様ご自身が把握でき、患者様の不安を少しでも和らげることに役立っています。また、クリティカルパスを用いることで、医療の標準化ができ、一定の質を保った看護を提供できるという利点があります。今後より一層わかりやすく、見やすいクリティカルパスの作成に努め、患者様にはより安全に、より安心して治療・看護が受けられる環境づくりをめざしていききたいと思っています。

車イス手動式足台開閉 レバー装置の寄贈

平成23年1月6日、市内の(有)渡辺熔接所代表取締役渡辺哲也様から車イスの「手動式足台開閉レバー装置」約40基を寄贈していただきました。

この装置は、手元のレバーで簡単に足台を開閉できるものです。今までは、利用者や介護者が手で足台を上げ下げしていましたが、これからは、かがまなくても手元のレバーで簡単に操作できます。衛生的でもあり、楽に操作できることから、利用者の皆様には喜ばれるものと思っております。今後も大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



このレバーで
操作します

操作方法

足台を下げる➡レバーを上にかく
足台を上げる➡レバーを下に押す

市立湖西病院 健康まつり

▶開催日

平成23年 3月12日(土) 13:00~16:00

1階中央待合ホールにて

開催時間 13:00~14:30

◎アンサンブルコンサート

市内中学校(鷺津、白須賀、湖西、岡崎、新居中学校)の
生徒による演奏

2階講堂にて

開催時間 14:30~16:00

◎健康維持のためのウォーキング教室

関節・筋肉・呼吸・循環・神経・・・1つ1つを感じる歩行とは？

日ごろ何気なくできている歩行ですが、感じている感覚は人さまざまです。

人の体はとてうまくできていて、うまく使うかどうかで健康になったり不健康になったりします。

今回は歩行を中心とした姿勢について、関節・筋肉・呼吸・循環・神経を関連づけて教室を開催します。

ウォーキングに興味のある方は、運動できる服装でぜひ参加してください。見学だけでも歓迎です。
気持ちよく歩けることが健康維持の第1歩です。

◎簡易健康診断

開催時間 13:00~16:00

骨密度測定:骨密度を測定します。

血管年齢調査:血管の硬さと狭窄を調べ、血管年齢を推測・算定します。

◎栄養科のブース

開催時間 13:00~16:00

塩分濃度が違う清汁の飲み比べ体験ができます。
エネルギーコントロール食品やえんげ食等のサンプルを配布します。